

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000013		
法人名	医療法人ホーソク勤労者医療協会		
事業所名	勤医協グループホームたんぼぼ		
所在地	北見市常盤町5丁目4-7		
自己評価作成日	2018.1.31	評価結果市町村受理日	平成30年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人内の病院や訪問看護と医療連携し、利用者の体調管理に努めています。食事作りや繕い物などをボランティアの協力を得て行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://hw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigvosyoCd=0195000013-008

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成30年2月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームたんぼぼは、平成18年医療機関を母体に小規模多機能事業所、デイサービス、訪問看護ステーション等と開設され、地域に根差した介護事業を展開しています。運営推進会議の中では町内会役員からの提案、協力があり、地域の公園での段差解消に繋がっています。毎年母体の医療機関が中心となって健康祭りを開催しており利用者、家族を始め市民1000人規模の参加で交流を行っています。町内会向けに通信を発行し理解に繋げており、地域住民からもボランティアの協力やパッチワークの寄贈を受け良好な関係が構築されています。職員には、「ゆっくり」「のんびり」「じぶんらしく」の理念が浸透しており日常の介護時に実践出来ているかを振り返りながら利用者一人ひとりの思いが実現できるよう取り組んでいます。介護記録の達成度が解る様な記録がされており、家族が出席したサービス担当者会議で検討して適切なサービス提供に努めています。また、職員間のコミュニケーションが取れていてお互いの信頼関係に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

z	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆっくりのんびり自分らしくの理念を部会や学習会などで確認し、共有できるように努力している。	「ゆっくり、のんびり、じぶんらしく」の理念を掲示し部会や学習会等で話し合い常に意識の元に置き実践に努めています。更に地域との関係等を考慮し加筆していく計画と成っており会議の中で話し合われています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し総会屋花見などの行事に参加している。回覧板で事業所の様子をお知らせしている。	町内会に加入しており、お花見の焼き肉会には利用者と参加しています。町内会の回覧板を利用して頂きグループホームの様子を知らせしています。法人の健康祭りには市民が1000人以上参加し盛大に開催しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会向けの通信で認知症について学んだことをお知らせしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではサービスの取り組み状況などを報告し、頂いた意見をサービス向上につなげるよう努力している。	運営推進会議は併設の小規模多機能事業所と共催しており、法人友の会会長、利用者家族、町内会役員、地域住民、市担当者、高齢者相談センター職員等の出席を得ています。活動、行事、事故報告を行って意見を得てサービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者からは事業運営のアドバイスをいただいている。	市担当者とは、申請書や報告書提出時に事業運営や介護について詳しく内容を伝え報告する様にしており、助言や指導を受けたりして積極的に伝え協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会に参加したり、部会などで学習している。帰宅願望が強く安全確保のためにやむを得ず玄関の施錠を実施している。	身体拘束をしない介護については、部会で学習しており身体拘束の弊害や禁止対象の具体的な事項、不適切な言葉や行動抑制の事項について正しく理解し身体拘束をしない介護に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会に参加したり、部会などで学習して虐待防止に努めている。		

z	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年権利擁護の学習会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて説明を行い確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口がある事を知らせている。御家族の意見や要望は真摯に受け止め運営に反映させている。	利用者の意見や要望は日常の会話の中で把握するように努めています。家族とは3ヶ月毎に「いきいき通信」としてお便りを出して写真を掲載し様子を知らせしている他、面会時の会話の中で要望を把握して運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部会で意見を出してもらっている。日常的に意見や提案には耳をかかむけ反映するようにしている。	管理者は、毎月部会と各ユニットに分かれた会議を開催しその中で職員の意見や提案を確認しています。その他個人面談を行っておりその中で抱負や提案を運営に取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できるように取り組んでいる。働きながら資格を取得できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協会に加入し、学習会に積極的に参加し交流をしている。包括支援センターの研修会にも参加し交流を深めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は不安を和らげられるよう、コミュニケーションを多く持ち信頼関係を築きながら、要望などをうかがっている。		

z	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の状況や不安な事、要望などを細かく伺い、信頼して頂く事が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所当初は御家族との連携を密にし、利用状況を報告しながら支援を見極め、本人と御家族がのぞむ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者が培ってきた知識や技術、経験などを尊重し、教えて頂くという謙虚さを持ち仕事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者本人の思いを代弁して家族に伝え家族との絆を大切にしている。カンファレンスには家族にも参加して頂き、一緒に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの美容院や歯科医院などに出掛けたり出来るよう支援している。	利用者のこれまで通っていた美容室へは家族の協力で訪問しており、美容師さんの訪問を受けている方もいます。新聞を購読したり、日記をつけている利用者もいてこれまでの馴染みの継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や散歩、レクリエーションなどを一緒に行う場面を多く設定し利用者同士の交流が図れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で契約が終了となったが、退院後再度利用したいとの希望があり契約を更新している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりを多く持ち、本人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族に情報を知らせて頂き支援につなげている。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は、アセスメントや生活歴さらに、日常の会話で把握して実現に向けて取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、これまでの暮らし方やサービス利用などの情報を収集し、経過の把握に努めている。		

z	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやセンター方式の活用で暮らしの現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族参加のカンファレンスを6か月ごとに実施し、介護計画を見直し、現状に即した計画作成に努めている。	介護計画は基本的には6ヶ月毎に、利用者家族とサービス担当者会議を行い要望を把握して見直しを行っています。生活記録には目標の達成度が評価され見直しに役立てており現状に即した計画作成とサービス提供に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録が介護計画の評価に結び付くようにし、計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があるときは家族と外食や外泊など、その時のニーズに合わせた対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の花見や法人の健康祭り、市の菊祭りなど季節ごとの行事に参加し楽しめるよう支援している。ボランティアの方に生活を支援して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医に受診して頂いている。家族が付き添う事が出来ない時は、職員が対応している。	利用者のかかりつけ医は、運営母体の医療機関になっており毎月往診も受けています。その他の医療機関の受診は家族が対応しており家族対応受診表で様子を知らせしています。また週に一度の訪問介護があり健康管理を行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調に変化があるときは、医療連携している訪問看護に状況を伝え、必要時は訪問して頂き受診にもつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には書面にて入居状況を情報提供している。退院時は、病院から情報をいただき、施設に戻ってからスムーズに生活できるように努めている。		

z	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	寝たきり状態になった時は、終末期について家族と話し合いを持っている。職員は情報を共有しチームで取り組んでいる。	重度化した場合における対応に関する指針、グループホームたんぼぼの看取りに関する指針で希望があれば取り組めることを利用契約時に説明して、理解と同意を得ています。内部研修を行い適切な対応が出来るよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の学習会に参加し学んでいる。緊急時のマニュアルを作成し対応方法について確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。運営推進会議で地域の参加者と災害時の避難場所を確認している。	避難訓練は併設の小規模多機能事業所と合同で年2回、消防署の指導と地域住民の協力を得て行っています。今年度は自然災害に対する避難訓練を実施しており、年度末には夜間対応の火災避難訓練実施を計画しています。	停電時の防寒対策や避難経路確保等冬期間の対策構築を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴、着替えなどの時は羞恥心に配慮し、プライバシーを損ねない対応に努めている。	利用者一人ひとりの誇りや尊厳を損なわない様声掛けに注意を払った介護を行っています。排泄や入浴時には直接的な言葉は使わずさりげない誘導で促すよう取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に衣類や飲み物、入浴、排せつなどの希望や選択など本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を確認してから行動に移している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の声掛けや支援、衣類は季節に合ったものを職員と一緒に選んでいただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせて、食材切り、盛り付け、テーブル拭き、食器拭きなどを職員と一緒に出来るよう支援している。	食事の朝・夕食は外部業者の献立、食材で用意し、昼食は利用者と共に調理しています。献立は食材係の職員が利用者の好みや希望を配慮して楽しいものになる様にしています。	

z	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人一人の体調や嚥下力などを考慮し食事形態を変えたり、小分けにして提供するなど工夫をしている。水分が摂れない方には細目に提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い実施している。自力で出来る方にも磨き残しがないか確認している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツや尿取りパッド使用の方でも定期的にはトイレ誘導し、トイレで排泄が出来るよう支援している。	一人ひとりの排泄記録を取りパターンを把握して、様子見をしながら声掛けし失敗の少ない排泄支援を行っています。声掛けに配慮し、羞恥心の起きない介護に取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりの排便状況を把握し定期的に排便できるよう調整している。水分補給、食物、運動などで腸の蠕動運動が亢進できるように取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿った入浴介助が出来るよう努めている。	入浴は週2回以上を基本として、2名での介助やストレッチャーでの入浴と、利用者に合わせ、その日の状況や状態を考慮した支援に取り組んでいます。拒否で困難な利用者には無理強いせず雰囲気を変え気持ちの向く様な声掛けで対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠がちな方には居室で気持ち良く休めるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの薬情書をファイル化し内容を確認し理解したうえで服薬支援を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ、食材切など役割を持って行って頂いている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時は散歩や外気浴などをして頂いている。個々の希望は家族の協力を得ている。	外出は気候の良い季節になると散歩や外気浴の他ドライブで近隣公園や郷土施設訪問を積極的に取り組み、気分を変えながら生活できるよう家族の協力を得ながら行っています。		

z	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人のお金は保管庫に預かり、毎月家族に収支報告を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望するときは電話で話せるように支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物は季節の行事に合わせて工夫している。必要以上に大きな音を立てないように注意している。温度計を設置し室温や湿度に気を付けている。	リビングは明るくゆったりとしており季節の飾付けや写真を掲示し楽しい雰囲気を作っています。冬期間は温湿度に配慮し加湿器使用や洗濯物を乾かすようにして環境を整えています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓スペースやソファなどでテレビを見たり、話をしたり歌を聞いたりなどくつろげるよう工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの家具や花、置物、カレンダーなどを用意して頂いている。	居室はベットや箆笥、ソファー等の家具を配置し、家族の写真や絵、縫いぐるみ等を置いて自宅同様居心地良く生活できるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所はフロアの中央に位置し、職員と一緒に仕事ができるようになっている。全フロアは、バリアフリーで手すりも設置され安全に移動できるように配慮している。			